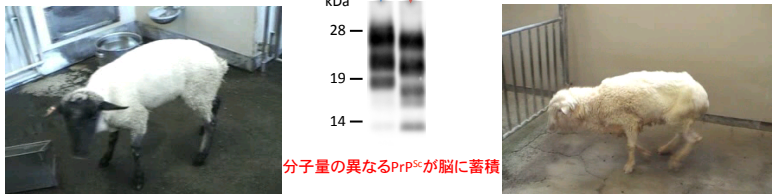


スクレイピー野外症例の体内におけるプリオンの多様性

研究分担者: 動物衛生研究所インフルエンザ・プリオン病研究センター 宮澤光太郎

I. 定型スクレイピー野外発症ヒツジ脳から分離された2つのスクレイピー

①定型スクレイピー ②CH1641様スクレイピー

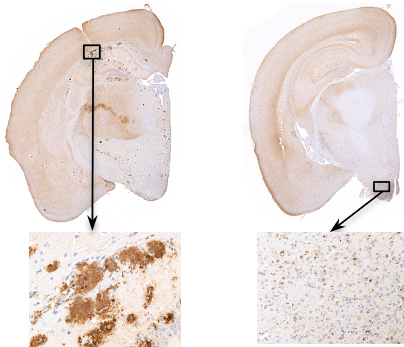


野外発症例のほとんどを占める。
野生型マウスに伝達可能

野外発症例は稀。
野生型マウスに伝達不可能

II. TgOvPrP59マウスに伝達した2つのスクレイピープリオンの生物学的性状

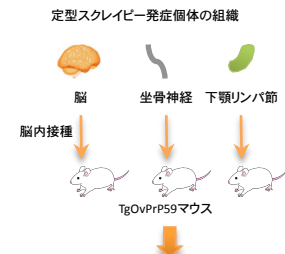
定型スクレイピー CH1641様スクレイピー



定型スクレイピー CH1641様スクレイピー

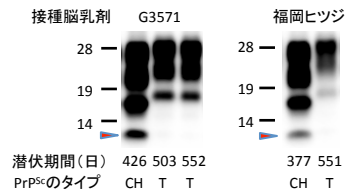
PrP ^{Sc} 沈着	広範囲にブランク様の沈着	限局的な顆粒状の沈着
潜伏期間	約462日	約257日

III. 定型スクレイピー野外症例の各組織におけるスクレイピープリオンの多様性



各組織におけるスクレイピープリオンの分布を検討する。

野外発症例の脳を接種したTgOvPrP59マウスでのPrP^{Sc}蓄積



CH: CH1641様スクレイピープリオン, T: 定型スクレイピープリオン
矢頭はCH1641様スクレイピープリオンの特徴である約14kDaの断片を示す。

組織	発症数/接種数	蓄積したPrP ^{Sc} のタイプ	
		定型	CH1641様
脳	11/12	5	6
坐骨神経	4/5	4	0
下顎リンパ節	1/5	0	1

定型スクレイピー野外症例の体内には2種類のスクレイピープリオンが混在する。

解説

1. 定型スクレイピー野外発症個体の体内には性状の異なる2種類のスクレイピープリオンが混在している。
2. 定型およびCH1641様スクレイピープリオンは、異なる組織向性を示す。